作成日：2022年6月8日(水)
対象:　　ポルト児童
作成者:　　進藤早苗

これなーんだ？

保育のねらい：互いの良さを認めながら遊びを進めていく。

保育の振り返り

ポルトの子どもたちの楽しみの一つに、おやつの後のなぞなぞや、クイズがあります。自分で問題を作ったり、紙に書いてきたりお気に入りの本を持ってきたりといろいろです。どの子も「今日はなんだろう？」とワクワクしながら待っている姿が見られます。クイズに正解をした時の嬉しそうな顔はもちろん、答えを考えている時の子どもたちの嬉しそうな顔が見られます。「前にもやっていたよね？」「あれ？なんだっけ？」と会話も弾んでいますが、思い出した子もその場で言ってしまうのではなく、「ハイ！」と挙手するのが子ども達の中でのルールのようです。上級生の子ども達が、ポルト1年生の子に発言を譲ってあげる場面や、間違った時にも優しく接する場面を見ることが多くあります。上級生の子どもたちは、言葉にはださないけど、自分も発言したかったんだろうな…と感じる場面があります。互いに友達を認め合いながらその場にあった振る舞いを今は自然と出来ていますが、うっかりあてられる前に話してしまう友達にも「手をあげるよ」等の優しい言葉かけをしている姿を見ておしたらすると、幼稚園の時に、「困っていることを一緒にしてきたなと思い出しました。そして自分でも、子どもたちの「手伝っ姿を見ているかなくんすごい！」「優しい時間だけです。答えを聞いて、保育者は「えーー思いつかなかったこと気付き、喜び楽しんでいるんだなと感じました。互いに認めあい成長していく姿をこれからも見守っていきたいです。

（言葉による伝え合い、協同性、思考力の芽生え、豊かな感性と表現、道徳性・規範意識の芽生え）